

認知心理学からみた リスクコミュニケーションのあり方

京都大学大学院教育学研究科
教育認知心理学講座 楠見 孝

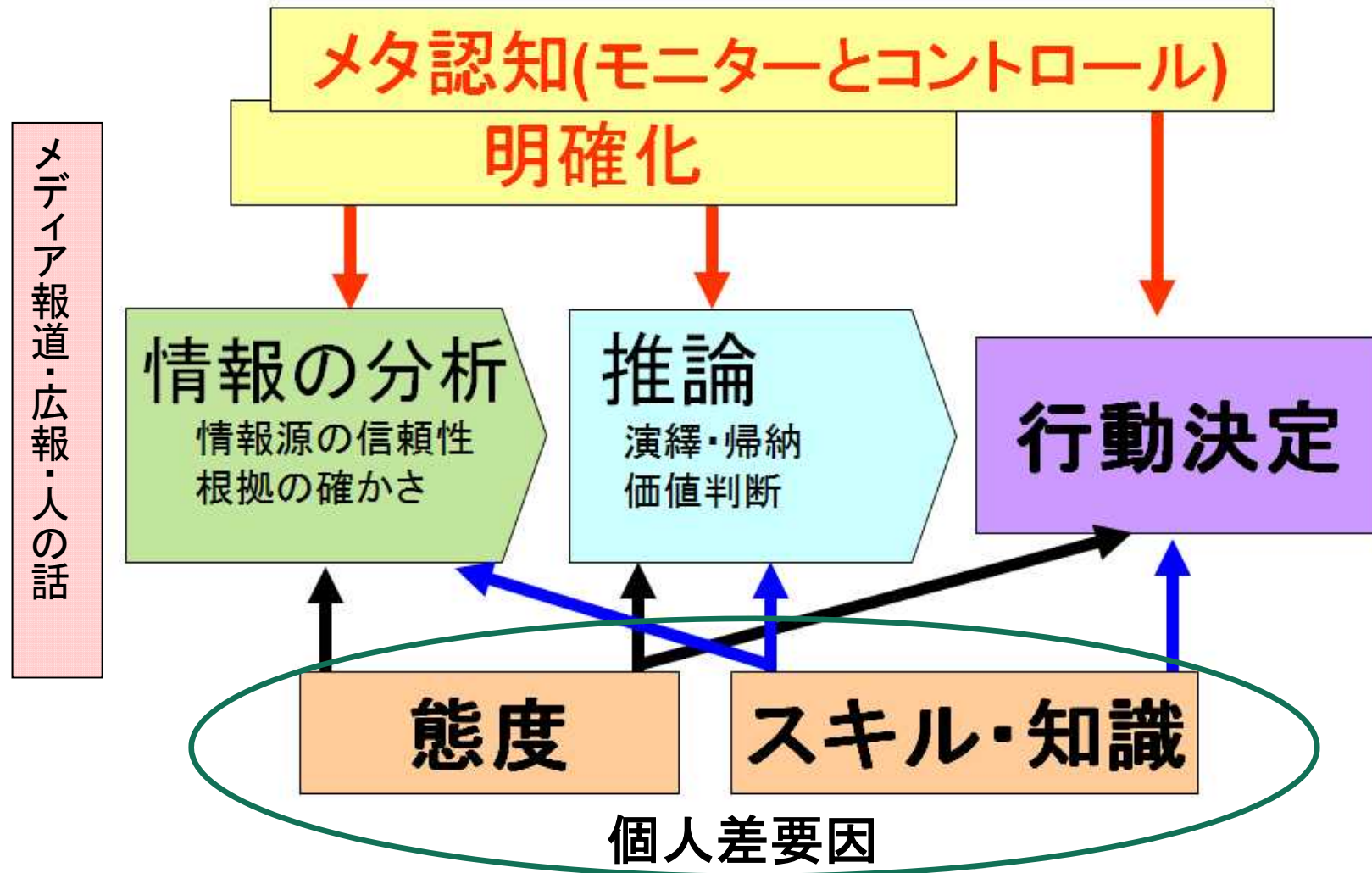
<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/cogpsy/kusumi>

1. 認知心理学とは:リスクコミュニケーションへのアプローチ
2. リスクリテラシーと批判的思考
3. 受け手のグループ分けとリスクコミュニケーション
4. 受け手のリスク認知変容を促す情報発信の例
5. まとめ

1 認知心理学とは： リスクコミュニケーションへのアプローチ

1. 人の心と行動を支える**認知過程(知覚・思考・言語・記憶)**を、科学的方法(実験・調査・観察など)によって、解明し、説明・予測して、人・社会に役立てる
 - 人の心を**情報処理プロセス**と見なす
 - 人のもつ**情報処理能力の制約とその個人差**に着目
2. **個人差**(年代, 性別, 子どもの有無, 知識, 態度, リスク感性など)に応じた情報提供

批判的思考のプロセス(楠見,2011)



批判的思考によるバイアス修正

(楠見,2011)

個人差要因

批判的思考(システム2)

コントロール的, 認知的努力必要, 遅い処理
論理的・分析的, 熟慮的・反省的思考
意識的にバイアスを修正する

普遍的要因

直観的思考(システム1)

自動的, 認知的努力不要, 速い処理
情緒的, ヒューリスティックス利用
無意識的に思考を導く
バイアスが生じることもある

国民・市民のリスク認知



1. 危ないって感じること
 - イメージ, 不安や恐怖, 一方で楽観
 2. 便益, 受け入れ可能性(低減要因)
 3. 主観的確率や損失の大きさの推定
- 1-3の**統合された心理的評価**

a. 人の認知能力の制約

システム1の制約とシステム2によるチェック/修正の限界

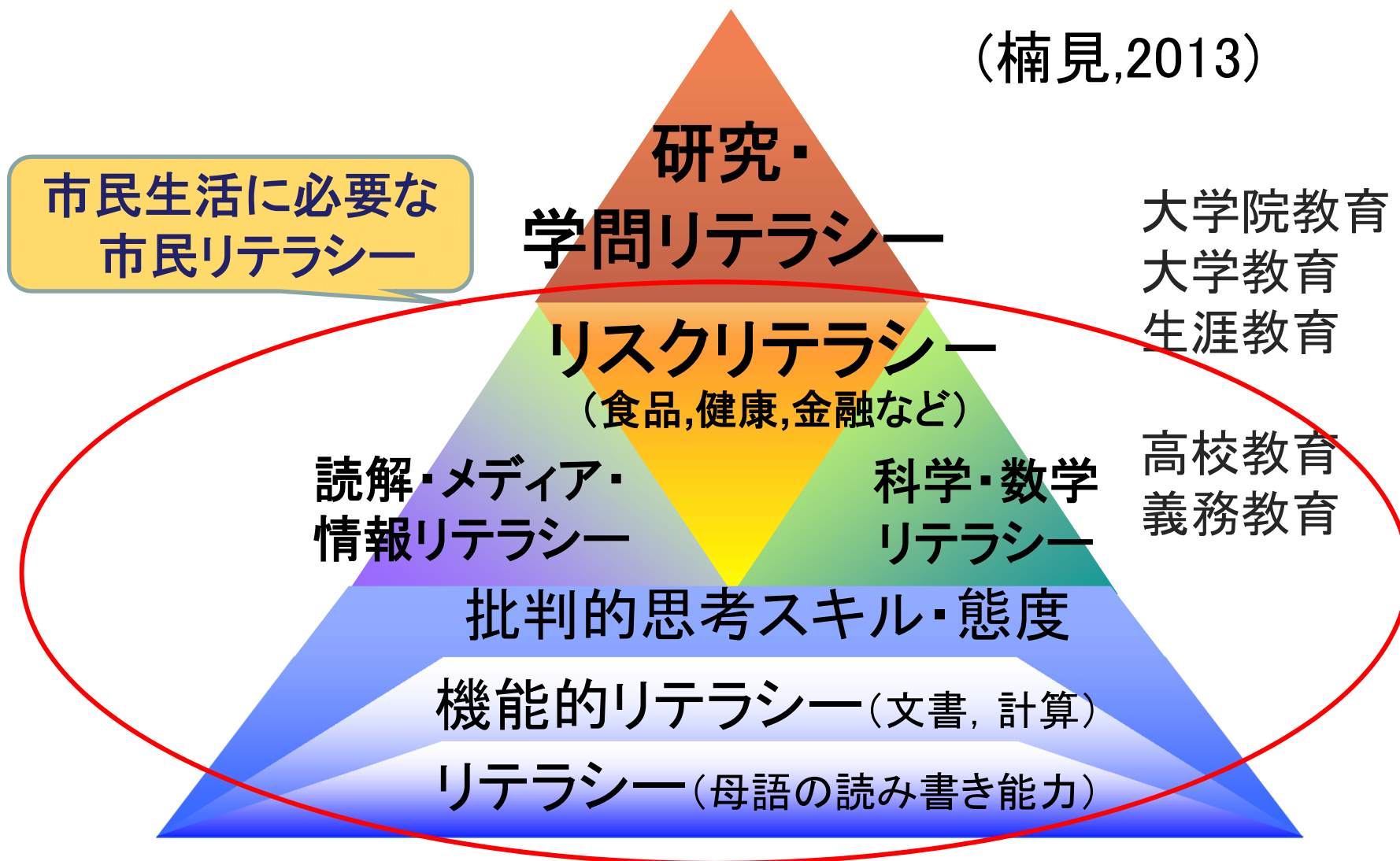
b. 人口学的変数(年齢・男女, 子の有無, 妊婦, 職業など)

c. 心理学的変数(リスク感性, リスクリテラシー, 信頼感, 価値観, ライフスタイルなど)

の**個人差**が影響

2 リスクリテラシーと批判的思考

(楠見,2013)



リスクリテラシーの構造(楠見,2013)

リスクリテラシー

- リスク情報を獲得し, 理解する能力,
基本的**知識**
- リスクを低減する政策, 支援,
サービスの**理解**
- リスクに関わる**意思決定や行動**

食品リスクリテラシー
放射線リスクリテラシー
医薬品リスクリテラシー
金融リスクリテラシー
:

メディアリテラシー

- メディアの表現技法, 制作過程, 企業の目的の理解
- メディアが伝える情報の吟味, 批判的理解と行動

科学リテラシー

- 基本的科学技術用語、概念理解
- 科学的な手法・過程の理解
- 科学政策の理解
- 意思決定と行動

統計(数学)リテラシー

- 基本的統計用語、概念の理解
- 統計的手法・過程の理解
- データに基づく意思決定や行動

批判的思考(クリティカルシンキング)(楠見,2011)

- 証拠に基づく論理的で偏りのない思考
 - 多面的, 客観的にとらえる
 - 科学的証拠に基づく判断: **リスクリテラシーの基盤**
- **内省的思考(リフレクション)**
 - 「相手を批判する」よりも, 自分の思考を意識的に吟味する, **メタ認知**
- **市民リテラシーを支える汎用スキル**
 - 目標志向的(例:リスクに関する意思決定をする)
 - 日常生活, 職業, 学校での実践の重要な要素
 - リスクの話を知る, メディアに接する, 文章を読む, 質問をする, 情報を集める, 自分の考えを議論する・書く, 問題解決・決定する時に働く

3. 受け手のグループ分けと リスクコミュニケーション

- **人口学的変数**（年齢、性別、世帯規模、家族のライフサイクル、所得、職業、学歴など）のグループは、**属性と所在が明確**なことが多い。

→もっている知識や情報ニーズを適切に把握すれば、それに応じた双方向的コミュニケーションが取りやすい。

- 例:年齢別に児童生徒に向けて、学校を通しての、図入りのわかりやすい言葉での表現などの工夫→他の年齢群の人にとってもわかりやすい

- **心理学的変数**（心理特性、知識、価値観など）のグループは、**属性と所在が不明確**なことが多い。

→グループやその情報ニーズを把握しにくい。

ネットコミュニティは心理特性グループへのアプローチの一つの手がかり

- 例:twitter, FacebookなどのSNS. 利用者は限定的だが

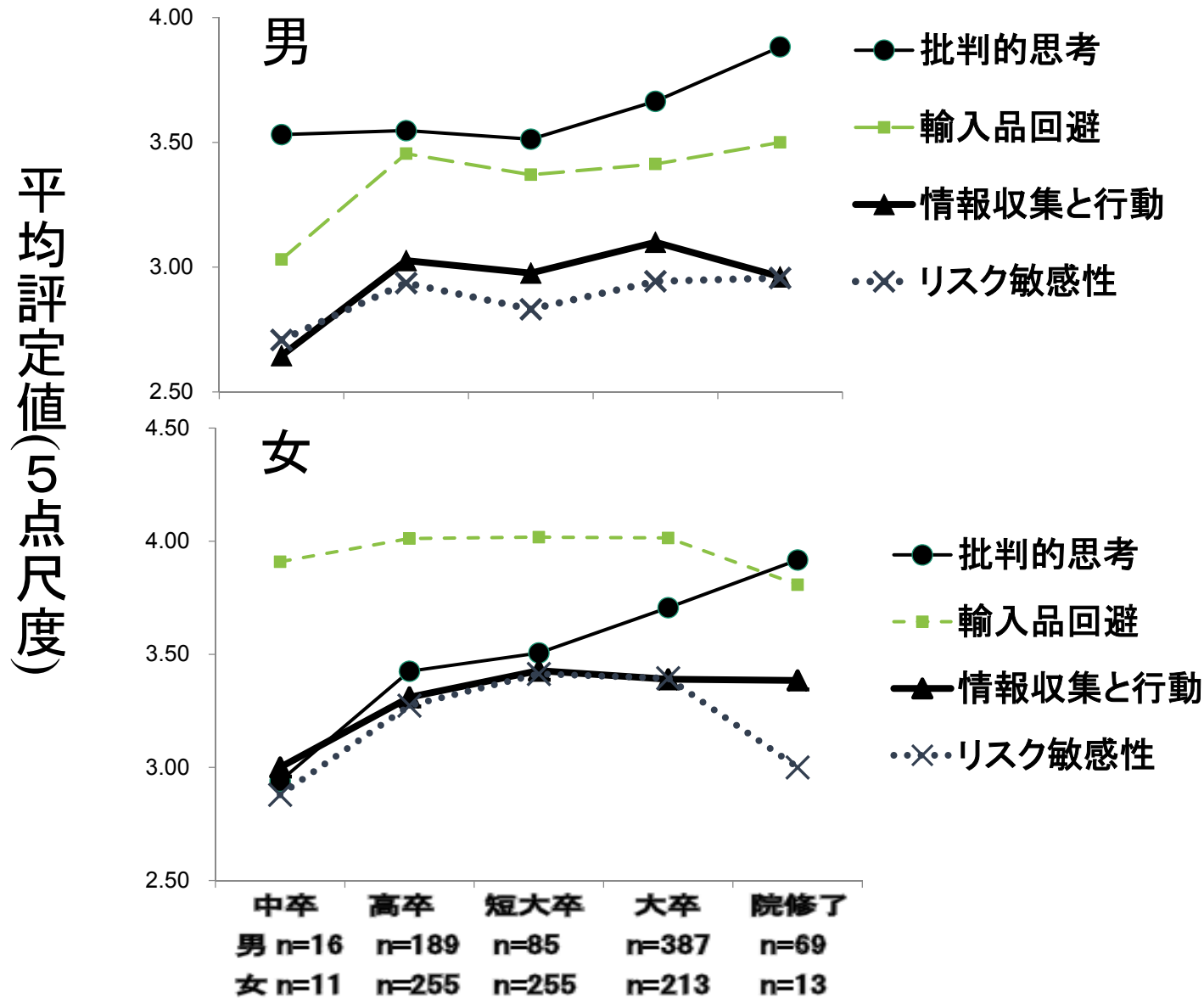
受け手の人口学的グループ分けとアプローチ

人口学的変数	受け手(対象者の例)	場所の例	担い手	媒体の例	考慮すべき点
年齢別	児童・生徒	学校	教員 専門家	授業, 教材	発達段階を考慮
	高齢者	施設 地域 家庭	施設関係者 家族	対面, パンフレット, 集会	実践できる方法をわかりやすく
ライフサイクル	妊婦, 病人 その家族	病院 サークル	医師 看護師 知人	対面, パンフレット, 集会 ネット	特別な関心, ニーズに焦点を当て,
	小さいこどもの親	保育園 幼稚園 サークル	保育士 教員 知人	対面, パンフレット, 集会, ネット マスメディア	リスク低減方法を伝える
男女	女性	職場 サークル ネット	同じ立場の人 専門家など	文書, ネット, 集会	知識, 経験レベルに合わせる
学歴, 職業	職業人				

受け手の心理学的グループ分けとアプローチ

心理的変数	受け手(対象者)の例	場所の例	担い手の例	媒体の例	考慮すべき点		
リスク 敏感性	リスクに敏感な人	地域 職場 家庭 ネット	専門家 関係者 マスメ ディア 知人 とくに 中立的 専門家	電話相談, 対話, 集会, ネット	疑問, 不安 の解消		
	リスクに鈍感な人			対話, マスメ ディア, パン フレット, ネット	リスクの存 在と対処法 を知らせる		
リスクリ テラシー	リスクリテラシーの 低い人						
信頼感	信頼感の低い人					情報源信頼 を高める	
ライフ スタイル	家族, 仕事, 趣味 地域社会志向の人					マスメディア ネット, 対話 文書	ライフスタイ ル, 価値観 に立脚した 情報提供
価値観	経済型, 論理型, 社会型, 宗教型, 審美型の人						

学歴とリスク対処行動(楠見・平山,投稿中)

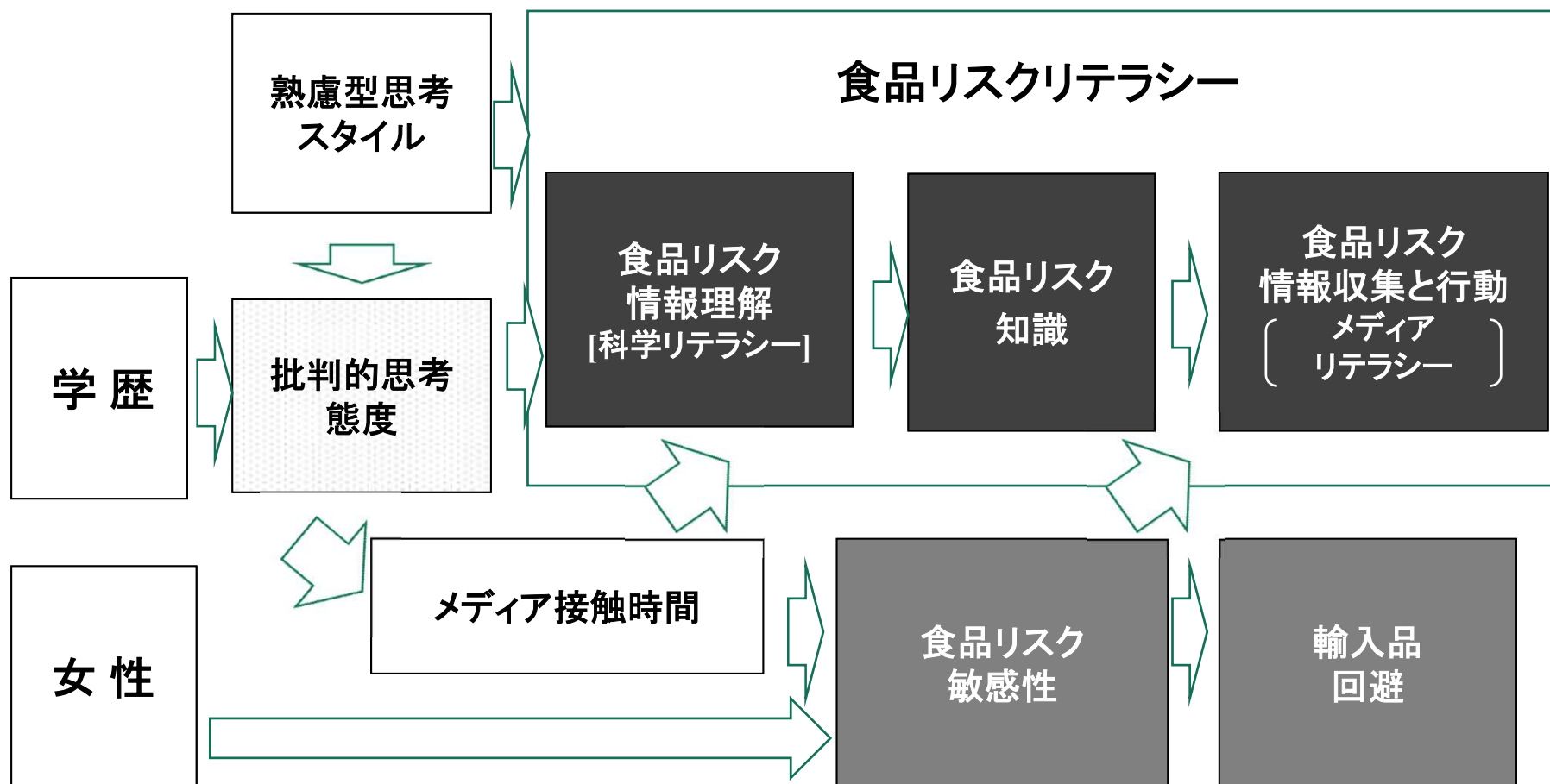


食品リスクリテラシーの仮説的モデル

(楠見・平山, 投稿中)

人口学的変数

心理学的変数(態度, 理解, 知識, 行動)



4. 受け手のリスク認知変容を促す情報発信の例：食品放射能リスクの対立情報統合

(楠見・平山・嘉志摩,2013)

- 複数のソースからの情報があるとき、単純にどれかひとつを信じればすむわけではない
 - 低線量の放射線は危険があるという発言
 - 低線量の放射線は危険がないという発言→問題の全体像を理解するには、複数の情報を相互に照らし合わせて、総合的に判断することが必要
- 複数のソースからの情報を評価するには、それらを統合することが必要
 1. 1つの情報源が賛否両論を述べる両論併記提示条件と、複数の情報源が賛成または反対の片方の論を述べる片論提示条件において、受け手が各情報源の信頼度を評価
 2. 提示条件が、情報統合の仕方、他者への伝え方、態度にどのように影響するかを検討 (e.g, Allen, 1991, Smithson, 1999).

予測

「1つの情報源が両論併記で述べた方が、
情報源の信頼度、情報の信頼度が高まる。
その結果、両論を踏まえた情報統合につながりやすい」

方法

- **実験参加者**: インターネット調査会社モニター960(男女480)人
 - 24～59歳; 平均41.5歳
 - 短大卒以上の学歴, 高校生以下の子どもをもつ既婚者.
- **居住地**:
 - 被災県480(福島県186, 宮城県294)人
 - 首都圏480(東京都260, 埼玉県104, 千葉県116)人

結果

- 両論併記の二者, 片論の二者のいずれの条件とも, 危険-安全の対立する主張を知ること, リスク認知とその確信度評価は低下した.
- 1. 信頼度は **片論危険** > 両論 > **片論安全** の順
- 2. わかりやすさは **片論危険** > **片論安全** > 両論
- 3. 伝えたいは **片論危険** > 両論, **片論安全**
- 4. 伝えることができるは **片論危険** > **片論安全** > 両論
- 一つの情報源が両論併記することは, 片論で危険だけを述べる場合に比べて, 信頼度やわかりやすさが低い

5. まとめ:今後の課題

1. リスクコミュニケーションの効果検証の方法について

- 対象者別の効果検証の必要性
 - 人口学的グループ分け(地域, 年代, 学歴, 子どもの有無)
 - 心理学的グループ分け(リスク感性, 信頼感, ライフスタイルなど)
- 効果検証の指標として, わかりやすさ, 態度, 知識に加え, リスクリテラシー, リスク低減行動の変化

2. リスクリテラシー, 批判的思考態度を高める コミュニケーション手法について

- 行政広報の信頼性を高める必要 → まずは見てもらう
 - Webだけでなく, TwitterやFacebook発信 ⇒ 即時性, 親しみやすさ
- 論争的テーマに関する情報提示手法開発の必要性
⇒ 国民・市民は危険情報に注目し, 伝達する傾向
- 心理学的グループ分け対象者に効果的にアプローチするための
ネットコミュニティ活用
- 国民・市民が双方向的に対話するためのリスクリテラシー,
批判的思考態度育成の重要性

主な文献

- 平山るみ・楠見 孝 (2004). 批判的思考態度が結論導出プロセスに及ぼす影響: 証拠評価と結論導出課題を用いての検討, 教育心理学研究, 52(2), 186-198.
- 楠見 孝 (2010). 批判的思考と高次リテラシー, 楠見孝(編) 思考と言語(現代の認知心理学3), 北大路書房, pp.134-160.
- 楠見 孝 (2011). 批判的思考とは: 市民リテラシーとジェネリックスキルの獲得. 楠見孝・子安増生・道田泰司(編). 批判的思考とその育成: 学士力, ジェネリックスキル, 社会人基礎力の基盤, 1-24. 有斐閣.
- 楠見孝 (2013). 科学リテラシーとリスクリテラシー 日本リスク研究学会誌, 23(1), 1-8.
- 楠見 孝・平山るみ (2009). 消費者の食品リスクリテラシーの構造: 学歴と批判的思考態度の影響 日本心理学会第73回大会発表論文集, 86..
- 楠見 孝・平山るみ (投稿中). 食品リスク認知を支えるリスクリテラシーの構造: 批判的思考と科学リテラシーに基づく検討 日本リスク研究学会誌,
- 楠見 孝・平山るみ・嘉志摩佳久 (2013). 放射能リスクに関する対立情報の統合: 片面-両面提示情報源の信頼度 日本心理学会第77回大会 北海道医療大学(発表予定)
- 楠見 孝・三浦麻子・小倉加奈代 (2011). 福島第1原発事故による食品の放射能汚染情報の信頼性評価(3): 大学生における1ヶ月後と4ヶ月後の比較調査 日本リスク研究学会第24回年次大会 静岡大学.
- 楠見 孝・三浦麻子・小倉加奈代 (2012). 食品放射能リスク認知に及ぼすメディアへの信頼と高次リテラシー: 震災後の市民パネル調査データによる検討(2) 日本社会心理学会第53回大会 筑波大学
- 楠見 孝・上市秀雄 (2009). 人は健康リスクをどのようにみているか, 吉川肇子(編) 健康リスクコミュニケーションの手引き, ナカニシヤ出版 pp.96-115.